

光と風を操る組積空間

この計画は、1970年代に日本各地で造られた地方都市における郊外型団地の一面に提案するものです。

高度経済成長期以降、大規模な団地が造成されてきましたが年月の経過とともに、現在では老朽化や高齢化が問題となっています。

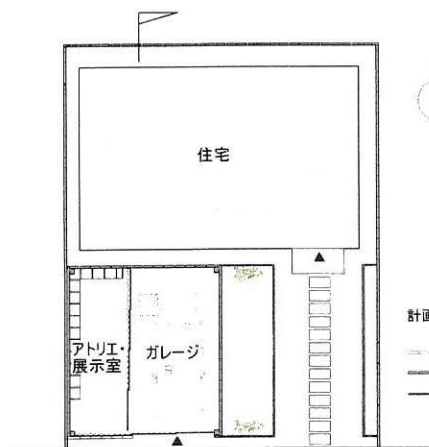
地方の郊外においては車移動が基本となったため

敷地内に2〜3台の駐車スペースが確保されているのが標準的ですが

現在では、子供世代の転居、高齢のため車を手放す等により

使われない駐車スペースが団地内に歯抜けのように点在しています。

本計画は、使われなくなったスペースに開放性のある趣味の空間をおくことで団地内の活性化、ひいてはコミュニティの復活を目論んでいます。



計画建物・・・CBブロック組積造・約35㎡

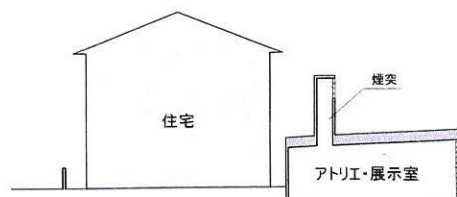
花ブロックを示す
コンクリートブロックを示す
レンガを示す



古い団地によく見られる花ブロック



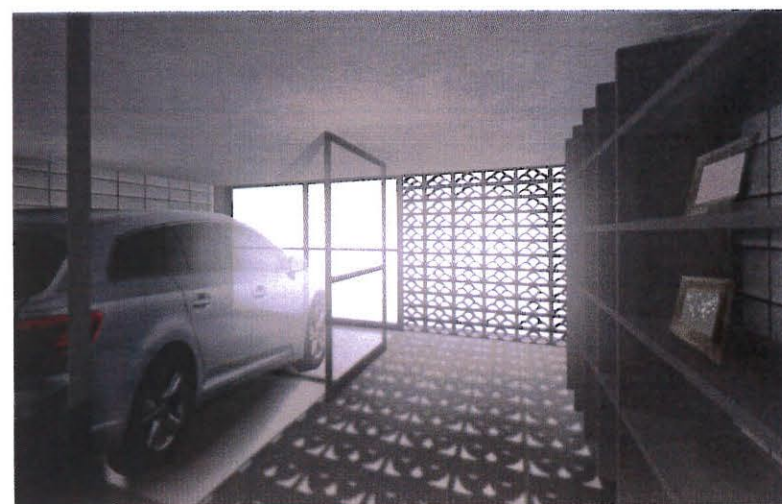
ELEVATION 1/200



SECTION 1/200



EXTERIOR VIEW



INTERIOR VIEW

ガレージ・アトリエ・展示室

室内の通気、採光を確保するために昔から職人の意匠として使われている花ブロックを使用します。

適度に内外の様子がわかり、自然と地域住民とのコミュニケーションが生まれます。

夜にはそこから美しいシルエットの光が漏れて、行灯的な役割にもなり、この団地の防犯対策にもなります。